

第11回 比企交響楽団 アンサンブルコンサート

(箏と尺八とオーケストラの融合)

2/22 日
2026

日時: 2026年2月22日 (日)

開場: 13:30 開演: 14:00

- 会場: 東松山市民文化センター
- 指揮・ピアノ: 高橋 健介
- 尺八: 石橋 紅童 ● 箏: 奥野 楽

● 演奏曲目:

- ・モーツァルト: 歌劇『コジ・ファン・トゥッテ』K.588 序曲
- ・モーツァルト: ピアノ協奏曲第24番 八短調 K.491
- ・冷水乃栄流: あい
- ・宮林亮至: 越天楽の旋律による幻想的ヴァリエーション
(日本初演・委嘱作品)

● 入場料: 1,000円 (全席自由)(高校生以下無料)

- 主催: 比企交響楽団
- 後援: 東松山市、東松山市教育委員会、川島町教育委員会、坂戸市教育委員会、滑川町教育委員会、鳩山町教育委員会、吉見町教育委員会、嵐山町教育委員会、ときがわ町教育委員会、小川町教育委員会

- フレイガイド:
東松山市民文化センター(0493-24-2011)、文林堂本店(0493-22-0108)
- お問い合わせ: 佐藤 (0493-35-1001)、古田 (090-6135-8014)

比企交響楽団 第11回 アンサンブルコンサート

○演奏曲目：

- ・モーツァルト：歌劇『コシ・ファン・トゥッテ』K.588 序曲
- ・モーツァルト：ピアノ協奏曲第24番 ハ短調 K.491
- ・冷水 乃栄流：あい
- ・宮林 亮至：越天楽の旋律による幻想的ヴァリエーション
(日本初演・委嘱作品)

○指揮・ピアノ：高橋 健介

○ 箏：奥野 楽

○尺八：石橋 紅童

●箏奏者略歴：

奥野 楽(OKUNO,Eden)

平成12年大阪府堺市生まれ。11歳で箏、16歳で三絃を始める。13歳からフルートを始め、大阪府立太陽丘高等学校音楽科では西洋音楽の造詣を深める。平成25年宮城道雄記念コンクール2位。第7回利根英法記念邦楽コンクール奨励賞。令和5年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。令和7年同大学院音楽研究科邦楽専攻修了。東京藝術大学在学時に宮城賞、アカンサス音楽賞を受賞。青山音楽財団奨学生に選ばれる。これまでに元東京藝術大学教授矢崎明子氏、志村智恵子氏に師事。宮城社教師。宮城会、森の会、同声会会員。現在はソロでの演奏活動および、TALON、禮-Rei-のメンバーとしても活動中。



●尺八奏者略歴：

石橋 紅童(ISHIBASHI,Koudou)

平成12年東京都生まれ。世田谷三曲協会主催の体験教室に参加し、9歳より藤井治童氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、令和5年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。在学中、琴古流を青木鈴慕、竹村皓盟、川瀬庸輔、都山流を野村峰山、藤原道山各氏に師事。学部在学中、安宅賞、宮田亮平奨学金、同声会賞及びアカンサス音楽賞を受賞。また、宮内庁皇居桃華楽堂にて行われた「令和4年度音楽大学卒業生演奏会」に出演。令和7年同大学院音楽研究科邦楽専攻修了。古典作品を中心に、ポップスや現代邦楽にも積極的に取り組み、活躍の幅を広げている。日本三曲協会、琴古流協会、世田谷三曲協会、同声会会員。「結の会」同人。



●ピアノ演奏・指揮者略歴：

高橋 健介

(TAKAHASHI,Kensuke)

埼玉県立大宮光陵高校音楽科ピアノ専攻卒業。東京藝術大学楽理科を首席で卒業。同大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了。在学中、同声会賞、アカンサス音楽賞、大学院アカンサス音楽賞を受賞。聖徳大学大学院にてモーツァルトのレチタティーヴォ・セッコに関する論文で博士号(音楽)を取得。2013年から2016年にかけてオペラアカデミーinS.アマデウスに在籍し、秋山和慶指揮による公演などを2台ピアノで行う。2014年より兵庫県立芸術文化センターのオペラ公演(佐渡裕指揮)にコレペティトゥアとして携わる。新国立劇場ではピアニスト、副指揮者の両方で音楽スタッフとして携わる。あこがれシリーズでは『リタ』、『ドン・パスクアレ』、『トスカ』などを指揮。近年は指揮者としての活動を広げており、オーケストラとの共演も行っている。二期会研修所講師、沖縄県立芸術大学非常勤講師。



●演奏曲目紹介：

■冷水 乃栄流 作曲：あい

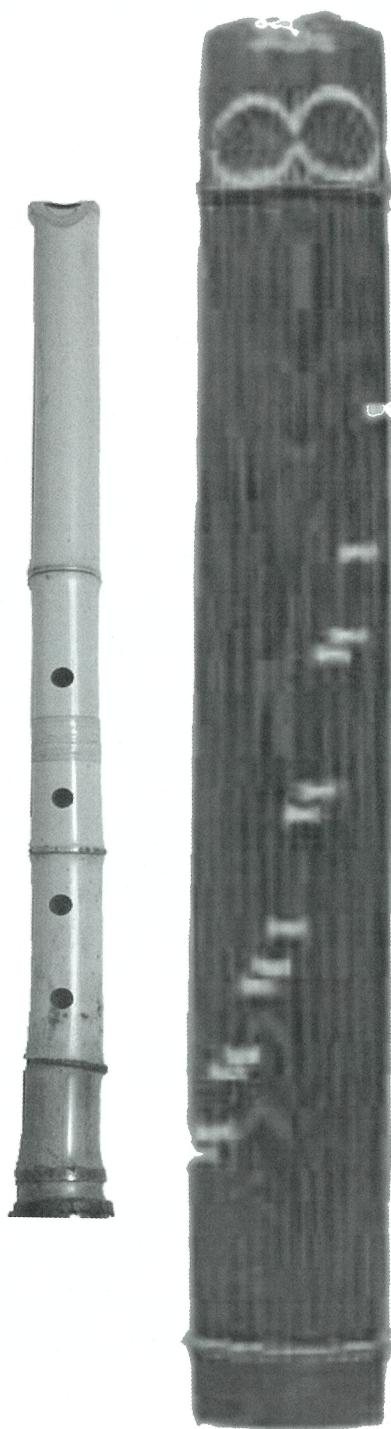
[編成]

尺八(一尺八寸管)	1
一三絃箏	1
ヴァイオリン	2
ヴィオラ	2
チェロ	2
コントラバス	1
ピアノ	1

本作品は邦楽器(和楽器)と洋楽器の混合アンサンブル作品です。

軽やかな春風を感じさせるようなリズムと、そこに乗って現れる暖かなメロディが中心となります。伝統を感じさせると同時に、フレッシュなグループが新しさを醸し出します。

そして、日本を感じさせる尺八と箏の音色が洋楽器のアンサンブルと手と手を取り合い、新たな旅路を寿ぎます。なお、タイトルには「藍」「愛」「合い」「逢い」・など様々な意味を織り込みました。



■宮林 亮至 編曲「越天楽の旋律による幻想的ヴァリエーション」

～箏、尺八、オーケストラのために～

この度、「越天楽の旋律による幻想的ヴァリエーション」を作曲させて頂きました宮林亮至です。新作を依頼してくださり、初演して戴けることになりました比企交響楽団の皆様にお礼を申し上げます。「越天楽」とは雅楽の曲名の一つ。日本で創られた曲、又は中国前漢の皇帝によって創られた曲とか云われ、そのルーツは定かではないようです。前漢と云えば紀元前205～8年の王朝ですから随分昔の話ですよね。「春の弥生の曙に、四方(よも)の山辺を見渡せば、花盛りかも白雲の、かからぬ峰こそなかりけれ」と平安時代に歌詞をつけて歌われたこともあり、その場合は「越天楽今様」と云われます。曲名にある幻想的とは、形式に拘ることのない自由な発想で創られる幻想曲に由来し、幻想的ヴァリエーションとは、自由に変奏された曲という意味合いです。

今回は、比企交響楽団の皆さま、和楽器の若いお二人、若き指揮者の高橋さんのお力をお借りし、ご来場の皆様とともに無限の時空へと楽しい音楽の旅ができればなと願っております。